

「あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。」

お正月を迎え、新年のあいさつが町のあちらこちらから聞こえ、温かさが伝わってきます。

さて、11月14日から16日までの3日間、今年度2回目の笠松町あいさつ運動が実施されました。小学校の校門や通学路を中心に、町内のあちらこちらで、前回よりも元気で明るい挨拶を交わすことができました。

笠松駅では、多くの小・中学生や高校生、一般の方が参加して、通勤や通学する人々に「おはようございます」と朝の挨拶をしました。これまでに比べ、こちらの挨拶に応じて「おはようございます」と挨拶をする人、笑顔で会釈をしていく人が増え、うれしく感じました。

その一方で、最近はやホンをしている人が増え、あいさつの声が届いているかが疑われます。自ら殻を作って社会との関係を希薄にしているといっても過言ではありません。挨拶には、そういった殻を取り除く効果もあるのではないかと思います。

今年度3回目の笠松町あいさつ運動を2月13日～15日の3日間で予定しています。さらに挨拶があふれる町にしていきたいです。



通勤される方へ行ってらっしゃいの挨拶



地域の方にも元気に「おはようございます」

かさまつの民話「昔むかし」

こま化け橋⑥

「あのう、お役人さま、今、すぐ仕事にとりかかりますので。」

と、あわてる雄留利をおさきえて「もういい。將軍さまは、この橋の美しさにこののほかお喜びで渡っていかれた。これもすべておまえらのおかげじゃ。また、あのよう

に落ちたが、田植えが終わってからゆつくりやれ。」

と、役人は金を投げて帰って行かれたと。伊多見はとみると、役人の話を聞いて首をひねっておつた。女たちも同じことよのう。雄留利は、先の夢を思いだして黒たちをさがした。しかし、馬は一匹も見えなんだ。ただ生まれたばかりの子馬たちが母馬をさがすのであるうか。さびしそうにうろろしとつただけだった。

かさまつの民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。笠松中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。

雄留利たちをみつけると子馬たちは鼻をすりよせてきた。そのさびしそうな顔をみつめながら雄留利は黒のことばや夢を思い出していた。「おれたちのために……。」

それ以来、だれ言うことなく「及橋を直したのは、化野の駒」などといって不思議がっておつたが、いつのまにか化野をアジカノと読んで馬たちに感謝したと。それでもふしぎよのう。將軍さまのお歌は残っておるのに、橋を直した覚えがないとはね。わが君のめぐみやとおく及川ゆたかにすめる水の音かな

(おわり)